

# 球磨支援通信



熊本県立球磨支援学校  
令和6年(2024年)12月 第3号

前回の球磨支援通信では、合理的配慮の定義や留意点を述べました。周りの環境を整えたり、適切なサポートをしたりすることで、これまでよりも学びやすさ、過ごしやすさを感じられるようになることがあります。

巡回相談で学校に伺うと、紙と鉛筆を使った授業のスタイルがまだまだ多くみられます。そこで、学びやすさを支える文房具、姿勢の保持を助けるアイテムについてご紹介します。もちろん、扱う道具を変えるだけで全てが改善されるわけではありませんが、「これを使えばできた!」という自信や、「これがあれば大丈夫!」と思える安心感を本人に与えてくれるサポートグッズにはなります。

## 文房具編



### くもんオリジナルのえんぴつ

太くて握りやすいので、正しい持ち方が身につく。芯の濃さが6B、4B、2Bとある。「こどもえんぴつもちかたサポーター」との併用もおすすめ。



### Q リング

鉛筆を持つ際に、握り込んでしまう、鉛筆を使い始めなどに有効。正しい持ち方である「3点固定」へと促す効果あり。鉛筆だけでなく、スプーンなど様々なものにも利用が可能。



### 様々な形状の消しゴム

細長い消しゴム、三角形の消しゴムは、持ちやすく、細かなところが消しやすい。力を入れなくてもきれいに消すことができる。三角形の消しゴムは、消しすぎが少ないのが特徴。互い違いに並んだキューブタイプの消しゴムは、角が28カ所あるため、細かい部分を正確に消すことができる。ただし、消す力が強い場合、壊れやすいため不向き。



### 見やすい白黒定規

文字とメモリが白と黒のハイコントラストで見やすい。メモリが端から付いているので深さや高さを測ることができる。

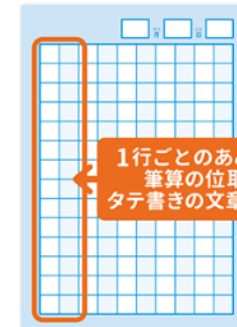


### Q スケール 15

シリコンゴムの強い滑り止め効果により、定規が動いてしまうのを防ぐ。ツマミ部分を持つことで、定規の場所を変える操作も簡単。端が斜めになっているため、線を引きやすい。



マス目小  
25mmマス



1行ごとのあみかけで  
筆算の位取りや  
タテ書きの文章に便利!

スクールラインプラス 合理的配慮のためのノート表紙は、学年や性別を限定しないシンプルなもの。ノートを開かなくても、中身の罫線がひと目で分かるデザイン。

本文は、見やすいUDフォント使用。  
本文用紙は、消しゴムをかけたときにシワになりにくく、めくりやすいように従来よりも厚めの用紙が使用されている。

ユニバーサルデザインの  
視点から生まれた罫線

大きく書ける!  
のびのび書けるようにマス目を大きく設定しています。

線が太くて見やすい!  
従来よりも線幅を大きくして視認性を高めています。

書く場所が分かりやすい!  
筆記部分を白抜きにして、「どこに文字を書くか」をひと目で分かりやすくしました。

## 姿勢保持アイテム編

### 椅子ずれ防止シート&椅子ずれ防止補助具

椅子の背面や座面に貼ることで、座った時の姿勢保持の補助に役立つ。シートはシートタイプで裏面の紙をはずして貼るだけ。椅子からお尻が滑らないように、股の間に滑り止めを付けるという方法もある。自然と椅子に深く座ることができるので、姿勢の崩れを防ぐことができる。



### 足置き場 その1

足の置き場が定まらず、足をぶらぶらさせてしまって落ち着けないことがある場合、足の置き場を作ることによって安定することがある。べたっと足が床につけば姿勢も安定する。個に合わせて、高さや素材などを工夫できる。



### 足置き場 その2

「姿勢よく座る」「集中して動かない」ことよりも、あえて感覚刺激を与えることで、集中力を助けたり、情緒の安定を保ったりすることが期待されることがある。ゴム状のタイプや筒状のタイプなど、本人にとって感覚として心地よいものを椅子に装着し、すねに当たるように調整する。



## 必要なアイテムはポジティブに使おう

こうした道具を使うことを本人が、あるいは周囲がマイナスに捉えてしまう場合があるかもしれません。これらは、あくまでも本人の困り感を解消したり、軽減したりするためのサポートグッズです。そして、誰にとっても使いやすいグッズの1つであるとも言えます。「~できないから使う」のではなく、「~を使うと楽だな、~できてうれしいな」と本人が思えるような働きかけが大切です。

学校では、全員同じ教材や文房具を購入することがあるかと思いますが、どの子にとってもそれが使いやすいものなのか、全員が同じものを購入する必要があるのか、改めて実態やニーズを踏まえてご検討いただけたらと思います。

例えば、“鉛筆を使ってめあてをノートに書いたら、赤鉛筆でその周りを四角く定規を使って囲む”といった場面が学年、校種問わずよく見られます。この活動が、この授業におけるめあて（がんばること、取り組むこと、学習のゴール）を理解し、学習に見通しをもつことが目的なのであれば、一人一人が板書を写す必要性や定規を使う意図などを、もう一度考えていただけるといいかもしれません。

私たちがいつの間にか抱えてしまっている「当たり前」を見直したり、振り返ったりしてみると、新たな授業のスタイルが見えてくるかもしれません。

様々な学び方があること、学びを助けたり支えたりするツール、場所（学びの場）があることを知り、認め合う子どもたちを育てていきたいですね。

### 【参考資料、写真の出典】

- ・公文 ・スクラボ特別支援（教材カタログ） ・スマートスクール（教材カタログ）
- ・センサリーツール研究所 ・岐阜市立岐阜特別支援学校 ・日本ノート株式会社
- ・発達支援機関 Pre-Position

〈お問い合わせ先〉

熊本県立球磨支援学校

教頭：紫垣

特別支援教育コーディネーター：高島

TEL: 0966-42-3792

FAX: 0966-42-6938

E-mail:kuma-s@pref.kumamoto.lg.jp

HP アドレス: <http://sh.higo.ed.jp/kuma-s/>



球磨支援学校のHP  
QRコード